

## 2016年度 卒業式・大学院学位授与式 式辞

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます。

皆さんの新たな門出にあたり、早稲田大学を代表して、お祝いのご挨拶を申し上げます。また、卒業生・修了生の皆さんを支えてこられたご家族・ご友人・指導教授その他の関係者の皆様に、心よりの敬意と祝意を表します。

本年3月の卒業式・学位授与式の対象者は、学部卒業者9,084名、大学院修士課程修了者1,934名、大学院専門職学位課程修了者506名、博士学位受領者204名（課程による博士181名、論文による博士23名）、芸術学校卒業者44名、合計11,772名ののぼります。このほか、昨年9月に、合計1,420名（うち留学生573名）が本学を巣立たれていいますので、2016年度卒業生・修了生の総数は13,192名の多数にのぼり、その10%強にあたる1,323名が留学生であります。

今から135年前の1882年に僅か80名の入学者を迎えて発足した早稲田大学が、このように多くの卒業生を送り出すことのできる大規模な総合大学へと発展した要因の一つに、本学卒業生たちが、幅広い分野で大いに活躍して、社会的な評価

を高めてきたことがあると思います。

本学出身で大活躍されている先輩方については皆さんもすぐに何人か思いつくと思いますが、英国の大学格付け会社QS社が2016年から発表するようになった“Graduate Employability Ranking”という世界大学ランキングの2017年版によれば、早稲田大学は昨年に引き続き日本で第1位、世界でも26位とされており、本学全体の卒業生の活躍ぶりが世界中の経済人から極めて高く評価されていることが示されています。

本日の卒業生・修了生の皆さんも、先輩諸兄に勝るとも劣らぬ活躍をしてくれるものと大いに期待しています。

このように多くの優れた若者たちが早稲田大学に集い、卒業後は世界各地で、また、ありとあらゆる分野で大いに活躍し、高い社会的評価・学問的評価を得ることができるようになったのは、本学の建学の理念と、それに基づいて築かれた自由独立の校風の下で、個性豊かな若者たちが互いに切磋琢磨して人間力に磨きをかけてきたという良き伝統があるからだと思います。

本学の建学の理念について、大隈重信の懐刀として本学の創立を実質的に支え、「建学の母」と称されている小野梓——ちなみに、小野梓は33歳10ヶ月で夭逝したため余り広く知られ

ていませんが、早稲田大学および立憲改進黨の実質的な創設者で、わが国の憲法学・実証政治学の先駆者ともいうべき偉大な学者でもあります——は、本学開校式において次のように述べています。

「国を独立せしめんと欲せば、必ず先ずその民を独立せしめざるを得ず。その民を独立せしめんと欲せば、必ず先ずその精神を独立せしめざるを得ず。而してその精神を独立せしめんと欲せば、必ず先ずその学問を独立せしめざるを得ず」と。

これは、明治維新後、欧米列強に抗してわが国の独立を確保することが最大の課題とされていた時期に、時の政府が、欧米の制度や学問をわが国にそのまま移植し、官僚主導による上からの近代化を図ろうとしていたのに対し、大隈や小野は、わが国の実情を踏まえ、かつ、権力におもねることのない自由で独創的な学問を行い、それを通じて自立した市民を育成し、彼らを基盤とした下からの近代化を図らなければ、真の近代的独立国家を築くことはできないと考えていたことを示したものであり、本学教旨にいう「学問の独立」とはこのような趣旨のものとして理解しなければならないと考えています。

卒業生の皆さんにとってこれからの活躍の舞台となる今日の社会は、明治初年に匹敵するような大きな歴史的な大転換の渦中

にあると言って良いと思います。すなわち、かつて日本が先頭に立っていた工業社会から、世の中全体が、いわゆる知識社会へと大きく転換しつつあるのです。知識社会では、高度の専門的知見・情報・技能が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増しています。また、技術革新とりわけ情報通信技術の急速な発展により産業構造・社会構造は大きく変化して、今後10～20年の間に現在存在している職業の約半分がコンピュータやロボットに取って代わられるだろうともいわれています。

大量生産・大量消費を旨とする工業社会においては均質で従順な人材が求められていたかもしれませんが。これに対し、知識社会においては、未知の問題に果敢に挑戦し、自ら綿密に調査・分析をして、独創的な解決策を作り上げ、文化的背景や価値観の異なる人びとと協働してそれを実行していくことのできる能力を備え、人間味と進取の精神にもあふれた個性的人材が必要とされています。また、社会の現状を顧みれば、かつて大隈重信が「模範国民の造就」という本学教旨の一つに関連して繰り返し強調していたように、そうした優れた人材が、文明の恩恵を私利私欲のために用いるのではなく、経済のグローバル化によって拡大した経済格差や環境破壊を是正し、すべての人が人間らしく生きていける社会を構築していこうとする利他的な人

格を備えていることが望まれているように思います。

幸いこの場にいる卒業生・修了生の皆さんは、早稲田大学で既に幅広く学び、深く研究に励んだことで、豊富な知識と類いまれな知恵とを身につけていると思います。また、授業や課外活動などを通して価値観や文化的背景の異なる人々との相互理解を深め、他者を思いやる気持ちも培ってきたと思います。そうした皆さんが、これからも生涯を通じて不断の学びを続けることで、自らの人生を豊かにするだけでなく、すべての人々が安全で幸福な生活を営むことのできる平和で豊かな世界の実現のために大いに力を発揮してくれることを願っています。

ところで、皆さんにとって、この「学の独立」あるいは「進取の精神」という言葉は、早稲田大学校歌を通じてすっかりおなじみになっているものと思います。「都の西北早稲田の森に」で始まる早稲田大学校歌は、日本で最初に制定された校歌で、今から丁度110年前に誕生しました。皆さんは本日をもって62万人に及ぶ本学校友の一員となるわけで、これからも校友会等で幾度となく校歌を歌う機会に恵まれると思いますが、そのたびに、「進取の精神」「学の独立」といった言葉に込められた大隈重信や小野梓らの想いを顧みていただきたいと思います。

ところで、大隈自身は、筆をとることがほとんどありませんでしたので、皆さんにとって大隈の思想に直接触れることは容易ではなかったのですが、彼は数々の素晴らしい演説を残しています。そこで、本学では、広く一般の方々に、とりわけ本学学生・卒業生に、ぜひ大隈の考えを理解し、受け継いでいただきたいと考え、『大隈重信演説談話集』（岩波文庫）を編纂しました。本学の同窓会組織である早稲田大学校友会は、新入会員歓迎の意味も込めて、これを本年度の学部卒業生の皆さん全員に贈呈することにいたしました。皆さんには、ぜひとも本書を座右の書としていただき、大隈の理念、そして早稲田精神を今後も身近に感じ続けていただきたいと思っています。

皆さんの学生生活は本日をもって一応の区切りとなりますが、進学する方はもちろん、就職をする方にとっても、皆さんの「学び」は今日で終わるわけではありません。皆さんが、本学で培った知力・体力・人間力を基礎として、これからも不断の学びと精進を重ねて、洋々たる前途を切り開くことを期待しています。早稲田大学は、いつでも必要なときに必要なことを学べる大学を目指していますので、必要になったときには、いつでも、また本学の門をたたいてください。

皆さんが、真のグローバルリーダーとして、世界の平和と人類の幸福の実現のために大いに活躍してくださることを祈念し

て、私からのお祝いの挨拶とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。